

榮法寺新報

新納骨堂 だより

落ち着く先も決まり

これでひと安心だ！

田舎では、過疎化・高齢化がますます深刻になっていきます。地域のあちこちに空き家が目立つようになりました。道を歩く人の姿もあまり見かけません。元氣だったあの人も、「最近見らんなあ！」です。

そんな時の流れに驚くばかりですが、それでは何の解決にもなりません。老後に生きる私たちは、気になることばかりです。

仏教の真理『生老病死』の四苦八苦が待ち構えています。なかでも大きいのが、お墓の問題です。自分の入るお墓はもちろんのこと、御先祖様の墓守も考えねばなりません。「そんなことは若い人に任せれば良い！」という人もいますが、田舎には若い人がいません。



居たとしても、若い人には明日への生活があり、とてもとても・・・無理です。

お墓は、人目につかない場所にある

田舎のお墓は山中や丘のはずれに造られています。昔、山のゆるやかな土地を削って、お墓が建てられました。

だから、大雨で土砂は流失し、苔が生えて草が茂ります。維持管理が大変です。お盆前には、家族総出でお墓の掃除です。しかし、それが将来まで続けられる保証はありません。

なにせ、人が居ないのでから・・・。

榮法寺の旧納骨堂は革新的でした

榮法寺の納骨堂は、そうした将来を見越して約五十年前に先代住職釋賢信により、建てられました。先見の明に、驚くばかりです。約五十軒の納骨壇に大勢の人が眠っておられます。

雨に打たれることも、風に吹かれることもありません。土砂が流れて、お墓が倒れることもありません。

日々、灯明がともり念仏の声が聞こえます。時々、遠方に住む身内が大勢、車で訪ねてきます。なつかしい顔、優しい声、涙が出るくらいに嬉しいことでしょう。

そんな納骨堂も一杯になり、新納骨堂を建設しました。優しく柔らかな木造の納骨堂です。

新納骨堂は高齢化社会の要請です！

内部には、四十基の納骨壇があります。木の扉には、豊かな自然と仏の世界が描かれています。そこは雨風の心配も無く、仲良く静かに眠れる世界です。



各家の納骨室は、高さ九十七センチ、幅五十七センチ、奥行きが五十センチと、とにかく大きくしました。というのは御先祖様の“墓終いを”される方がおられたり、また最近の骨壺はとても大きいので（直径26センチ）既製品の納骨壇には入らないのです。

長年の住職経験からこうしたこと
考えた上で設計しました。

お陰様で、すでに半数近くの納骨壇に
入壇いただいておりますが、その背景と
して最近の不思議な社会現象があるよ
うです。と言うのは、年老いた親がお寺
の納骨壇に入りたいと

子供たちに相談すると
「いや、私がお墓の掃除
をして守りをするから
心配せんで良い」と反対
された。どうしようか？
と尋ねられます。

「でも、心配なのよ！
と言うのは、その息子や
娘たちは、未婚なんよ。」
こんなやり取りをま
とめると結局、「自分の
お墓だけではなく、子供
達のお墓も私が用意し
て置かねば！」と言う結
論に至ります。すなわち、親には子供た
ちの将来まで考えた判断が必要とされ
るのです。

世の中、何が起きるか分かりません

昨今は、世界のあちこちで戦争が起こ



り、日本もたびたび大地震に見舞われる
不安な時代を生きている私たちです。
なんとか、少しでも安心できる明日を
迎えたい、将来展望をと思うのですが、
これが難しい。・今、やれることから
するしかないと考える毎日です。

ところで最近「人生は意外
に短い？」と感じています。こ
の先、どうなるか、よく分か
りませんが、今の私は、すでに生
老病死の『老』です。でも、悲
観する必要はないのです。

とにかく、ここまで長生き
したのですから。これからは
希望を胸に安らかに、余生を
送ればよいのです。

そのためには何事も早めの
準備と決断が必要だと思われ
ます。

そして、いずれは旅立つて
阿弥陀様のおられる極楽浄土
に往生する。そこには、懐かし
い人々がおられる。親や兄弟や御先祖様
たちが待っていてくれる。

生きて元気なうちに準備しませんか！

そうした未来に向けて、自分と家族の

墓所を決めておく。早めに対応しておく
ことが将来の安心につながるのではな
いでしょうか。
榮法寺の新納骨堂は、そんな願いを込
めて造られた、みなさんのお墓です。



お問い合わせは

榮法寺前住職 大畑雅英まで

電話 0978(27)3428番

携帯 090(4518)5741番